
朋友だより

8月も終わりに近づきましたが、相変わらず新型コロナが
猛威を振るっています。皆様お変わりありませんか。

今回は、今、話題のSDGsについて考えてみました。
ご参考になれば幸甚です。

2021年8月

(有)コンサルタント朋友
代表取締役 奥長弘三



国連 SDGsが問うもの



SDGsとは何か

世界の叡智が、私達の地球を守る為の目標示してくれました。異常気候が頻発するなど、今のまま進むと、あと何年か先に地球が人類の生存に必要な環境を保障しなくなるとの危機感が共有されたのです。

その結果、2015年の国連総会において、全員一致で採択されたものが、SDGs(持続可能な開発目標)です。

恐らく、国連総会で全員一致で採択される例は、きわめて少数でしょう。全加盟国の賛成とは、素晴らしいことです。

SDGsは2030年を期限として、「誰一人取り残さない」社会の実現をスローガンに、「世界を持続可能かつ強くしなやかな道筋に移行させる」ために、17の目標と169のターゲットから成り立っています。

これの実現の為には、現在の経済、社会、環境を抜本的に変革することが求められるという画期的な目標です。

SDGsの17の目標	
人 間	① 貧困をなくそう
	② 飢餓をゼロに
	③ すべての人に健康と福祉を
	④ 質の高い教育をみんなに
	⑤ ジェンダー平等を実現しよう
	⑥ 安全な水とトイレを世界中に
繁 栄	⑦ エネルギーをみんなに、そしてクリーンに
	⑧ 働きがいも 経済成長も
	⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう
	⑩ 人や国の不平等をなくそう
	⑪ 住み続けられるまちづくりを
	⑫ つくる責任、つかう責任
地 球	⑬ 気候変動に具体的な対策を
	⑭ 海の豊かさを守ろう
平 和	⑮ 陸の豊かさを守ろう
	⑯ 平和と公正をすべての人に
パートナーシップ	⑰ パートナーシップで目標を達成しよう
出所: 蟹江憲史著 『SDGs(持続可能な開発目標)』(中公新書 2020年8月) 口絵より	

SDGsの素晴らしい点

私は、SDGsの素晴らしい点として、次の3点に注目しています。

1. 「誰一人取り残さない社会」実現にむけての目標であること。

新しいことへ挑戦する場合、一部の力のある人、裕福な人達の都合が優先され、弱者、貧しい人達が取り残される場合が、しばしば見られます。その点について、SDGsは「誰一人取り残さない社会」づくりを、前面に掲げていることは、素晴らしいことです。

2. 地球の危機打開に正面から、取り組んでいること。

地球温暖化の問題は、まったなしの課題です。「今世紀末までに気温上昇を2℃以下に抑える」目標は、必達の課題ですが、現状は思うように進んでいません。

J.ロックストローム、M.クルム共著 谷淳也・森秀行ほか訳の『小さな地球の大きな世界—プラネタリー・バウンダリーと持続可能な開発—』(丸善出版 2018年7月)は、豊富な写真とともに、現状を分かりやすく解説しています。

3. 社会生活、経済活動、地球環境の課題をバラバラでなく、相互不可分のものとして捉えていること。

この為に、現状を変えるためには従来の延長線上の変革でなく、「抜本的な変革」が必要としています。

日本での取り組み

日本でも、早くから政府を中心に SDGsに取り組まれています。2016年5月に、SDGs推進本部が総理大臣のもとに、全閣僚を構成員として設置され、16年12月に実施指針が決定されました。(2019年に改定)

そして、2017年には SDGsアクションプランが策定され、それ以降毎年、新たなプランが発表されています。

政府の重点施策としての3本の柱と8つの優先課題が示されています。内容は下記の通りです。(出典:雑誌「経済」2021年7月号P.35)

[3本の柱]

1. ビジネスとイノベーション

—SDGsと連動する「Society5.0」の推進

2. SDGsを原動力とした地方創生
3. SDGsの担い手としての次世代・女性のエンパワーメント

〔8つの優先課題〕

1. あらゆる人々が活躍する社会・ジェンダー平等の実現
2. 健康・長寿の達成
3. 成長市場の創出、地域活性化、科学技術イノベーション
4. 持続可能で強靱な国土と質の高いインフラの整備
5. 省・再生可能エネルギー、防災、気候変動対策、循環型社会
6. 生物多様性、森林、海洋等の環境の保全
7. 平和と安全・安心社会の実現
8. SDGs実施推進の体制と手段

私がこの3本の柱と8つの重点課題を見て、最も心配な点は、SDGsが大切にしている「現状を抜本的に変革する」ものとしての取り組みが不鮮明である点です。

前出の雑誌「経済」2021年7月号で、駒沢大学名誉教授 小栗崇資論文(同誌 P.26~40)が指摘する日本の取り組みの問題点は、下記の3点です。

<問題点1>

SDGsの基本骨格となる目標から大きく乖離したものとなっている。

政府が打ち出した3本の柱にも、8つの優先課題にも貧困、格差、不平等を是正するための重要な目標が欠如している。

<問題点2>

SDGsを、企業や地方における科学技術イノベーションについての目標に歪曲している。

<問題点3>

日本の取り組みにおいて、基軸となる政府のSDGs推進策が無いに等しい。

企業や地方自治体の取り組みに多くを委ねており、政府としての達成目標や計画は出されていない。

この点、EUでは、2019年に気候変動対策「欧州グリーンディール」を公表し、2050年までにカーボン・ニュートラルを含む気候中立への目標を世界ではじめて公表しています。EUでは、「企業正義」と「環境正義」を一体化して推進する局面に入ったと言われています。(「経済」2021年7月号 P.33)

前述の如く、「世界を変革する」のが、SDGs

の目標なのですが、残念ながら日本においては、「日本を変革する」ものとして、SDGsは取組みられていません。

しかし、この日本でも効果を上げているケースもあります。例えば、2020年4月から、コンビニ店などでのレジ袋の有料化が決まりました。使い捨てプラスチックの削減を目指したのですが、実際に効果を発揮しています。

日本国民の習性として、本人が真に必要な性を理解納得すれば、きちんと実行します。政府が打ち出す施策の重要性を改めて感じます。

日本の未来への期待

SDGsが問いかけている根本は、「自然と人間の共存」だと考えます。人間という生き物は、地球のふところの中で生まれ、成長し、今日に至っているのです。地球あってこそ人間です。

ところが、人間の勝手気ままな行動が、森林を破壊し、過剰な炭酸ガスを発生させ、地球を傷つけているのが現状です。

この点については、つい先日発表されたIPCC(国連の気候変動に関する政府間のパネル)報告で、地球の温暖化への影響として、人間活動の影響であることを「疑う余地がない」と指摘したことは重要です。(2021.8.10付 東京新聞)

「自然との共存」は、人間が人間である為の根本ですが、SDGsはこのことを明確な形で示しています。

何ものにもとられない新鮮な心と目を持つ、幼稚園児、小学生がこのSDGsについてきちんと学ぶことを期待したいと思います。

それにより、これからの日本の未来は大いに期待できるものとなるでしょう。



株式会社 大月書店

(東京都文京区：代表取締役 中川 進 氏)

創業 1946 年の老舗出版社です。同社は日本国憲法と同じ年生まれであることを誇りにしています。同社が読者企業紹介欄に登場するのは 2 回目です。第 1 回は、6 年前の朋友だより No135 (2015.8.25 付) です。

大手、中小企業を問わず、どの企業も現在のコロナ禍には、苦慮しています。その中であって、同社はコロナ禍を現状の問題点を見直す良い機会と捉えています。確かに現在の変異ウイルスは、企業なり、人間の弱いところを突いてきます。その点、確かにコロナ禍は現状を見直し、反省する良い機会を与えてくれます。

同社は、常に時代の流れを的確につかみ、その中で、自社として何ができるかを考えます。自分達として、何ができるかを自分達で考えることを大切にしています。

今号の朋友だよりで取り上げたテーマである、SDGs についても同社では、次の 2 冊を出版しています。

高橋真樹著『日本の SDGs—それってほんとにサステナブル?—』(2021 年 3 月発行)

原佐知子著『10 代からの SDGs—いま、私たちにできること—』(2021 年 4 月発行)

2 冊とも、非常に読みやすく良書だと思います。

これについて、中川社長は「SDGs については、当社の場合、ちょっと出遅れた感じがする。それだけに、高橋著書は、日本における SDGs の取り組みを批判的に見ている」と言います。

同社の姿勢が良く出ている一言です。

経営理念

出版事業を通じて
平和と民主主義の発展
国民の生活と権利の擁護
真の国民の文化の創造と発展
に寄与・貢献する

お問い合わせ：株式会社 大月書店

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-27-16

TEL 03-3813-4665 FAX 03-3813-4656

URL：<http://www.otsukishoten.co.jp/>

～*～*～ あとがき ～*

朋友だより 171 号をお届けいたします

祭り・祀りの混在する今年の夏は忘れられないでしょう。コロナ禍・広範囲の豪雨災禍の中、一人ひとりの命の躍動とはかなさを同時期に感じながら日々を過ごしています。8 月は毎年原爆記念日・終戦の日と続く祈りの月です。9 日の長崎の式典で「人類が核兵器の惨禍を体験してから 76 年目の今年、私たちは、核兵器をめぐる新しい地平に立っています。1 月、人類史上初めて『全面的に核兵器は違法』と明記した国際法、核兵器禁止条約が発効しました。田上市長は条約に日本が署名し、批准することを求めます。」と宣言の中で語りました。コロナの感染爆発から命を守ることの困難さと併せて唯一の被爆国として国の決意次第で実現可能なこの求めに応じるべきだと、パラオリンピックを目前にして私は思います。(野上)



長崎遺構/山王神社の被爆鳥居

朋友

有限会社 コンサルタント朋友

〒174-0064 東京都板橋区中台 1-35-10

TEL. 090-4439-4550 FAX. 03-3935-3510

e-mail foryou91@tokyo.email.ne.jp

URL:<http://www.consultant-hoyu.co.jp>